

図書館だより

7月号 (令和8年度)

川之石高校図書委員会



待望の夏休みです。夏休みは普段の日より比較的本を読む時間が確保しやすいと思います。夏課題の読書感想文もあります。できるだけ本を読むよう心がけましょう。

夏休み中は原則として図書の貸出を行っていませんが、補習期間中（7月21日～7月31日・8月17日～）は川高図書館を開けています。どうしても本を借りて読みたいという人は申し出てください。

7月6日（月）以降に借りた本の返却日は、2学期始業式（8月27日）となります。夏休み中の開館日に返却する場合は、返却ボックスに入れて、貸出一覧表に返却日を記入しておいてください。



【新任の先生より】



飛田 善広 教頭先生

皆さんは普段よく小説を読みますか？読むのは国語の授業くらいという人から、読書が趣味で毎日読んでいるという人まで、様々だと思います。ここでは、皆さんに改めて小説が持つ魅力について考えてもらい、これまで以上に小説に触れてもらいたいと思っています。

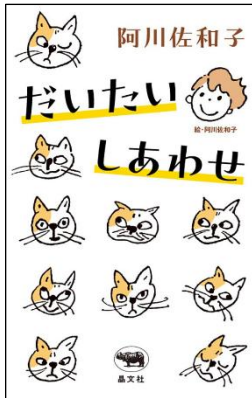
作家の平野啓一郎さんは、著書『小説の読み方』で、「この広大無辺で、複雑極まりない世の中を、そして、そこに生きる人間の心の奥底を、誰の手のひらにも収まるほどのコンパクトなサイズに圧縮して、濃密な時間とともに体験させてくれる。それが、小説だ。」と述べています。そして、「ある一定量の記号の連なりを、時間をかけて、前から順番に最後まで辿（たど）っていく間、小説は絶えず、読者に語りかけ、読者に耳を傾け、読者の手を引き、読者と一緒に感じ、一緒に考える。それは、途方に暮れるような情報の海を泳ぎ回るのとは、まったく別の興奮を与えてくれるはずだ。」と、情報過多の現代において、情報や言葉と「忙（せわ）しなく、広く浅いつきあい」をするようになった私たちにとって、小説は世間や人間に対する深い理解を促すことができる表現形式であると捉え、その魅力と必要性を語っています。

文字だけで表現された様々な世界や人々の人生を、映像や音声がないからこそ読者がそれぞれ想像力を働かせながら自由に追体験することで、感動したり前向きな気持ちになれたり、現実の自分の思考や行動が変わったり心が豊かになったりするのです。

この夏休みに、好きなジャンル、お気に入りの作家、有名な作品など、それぞれの選び方で一冊選んで小説の世界に浸ってみませんか。図書館にはあなたの心を動かし、成長を促す一冊がきっとありますよ。

【新刊紹介】

今年度は新刊の入荷が遅れたため、川高図書館には7月の前期の補習期間中に入る予定です。そのため、表にも書いてあるとおり、早く借りて読みたいという人があれば、夏休み中も貸出可としたいと思います。

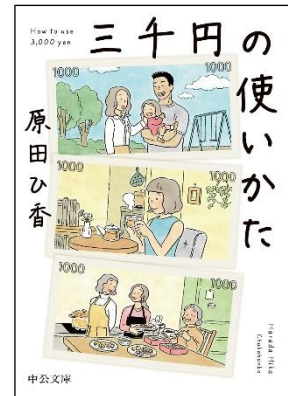


『だいたいしあわせ』（阿川 佐和子 著）

この題名を見たことがありますか？愛媛新聞で見たという人がいるかもしれません。2023年秋に『北國新聞』などから連載スタートし、全国12紙へと拡大、現在も連載が続く人気エッセイの約1年分の内容を収めています。どんなに足腰が痛くたって、ムツしたって、凹んだって…毎日をささやかな幸せを感じられるものへと変えるアガワ流、日々を楽しく過ごすコツ。友達に語るような筆致で綴（つつ）られた、元気のでるエッセイ集。本人のイラストつきです。

『三千円の使いかた』（原田 ひ香 著）

就職して理想の一人暮らしをはじめた美帆（貯金三十万）。結婚前は証券会社勤務だった姉の真帆（貯金六百万）。習い事に熱心で向上心の高い母智子（貯金百万弱）。そして一千万円を貯めた祖母琴子。4人の女性たちが、それぞれ直面する人生の悩みに正面から向き合い、コツコツ節約して貯金をし、その夢をかなえるために奮闘する物語です。3年ほど前にテレビでドラマ化もされました。



【6月 月間図書貸出冊数】

〈クラス別〉

6月1日～6月30日

2-1	2-2	3-1	3-2	合 計
10冊	8冊	16冊	8冊	42冊

〈個人別〉

- 1位 8冊 吉本 陽向（3-1）
- 2位 4冊 市川 小春（2-2）
- 中川 華穂（2-2）
- 4位 3冊 菊池 彩葉（2-1）
- 田中 芽咲（2-1）
- 西村 南奈（2-1）



読めば読むほど、人は真似をすることが少なくなる。

ジュール・ルナール（フランスの作家／1864～1910）